

平成25年度「福井新々元気宣言」推進に係る政策合意の実施結果 (平成26年3月末現在)

「福井新々元気宣言」の4つのビジョンを着実に実現していくため、平成25年4月に知事と合意した「政策合意」の実施結果について、次のとおり報告します。

平成26年3月

土木部長 幸道 隆治

I 総括

1 道路交通ネットワークの整備

- 舞鶴若狭自動車道の日も早い開通や、スマートインターチェンジの整備促進について、中日本高速道路株式会社や国に要請しました。

小浜・敦賀間については、難工事箇所であった笙の川橋が12月につながり、すべての橋梁の架設が完了するなど、26年度開通に向けて全区間で工事が進められています。

三方PAスマートインターチェンジ（仮称）については、6月に設置が許可され、敦賀南スマートインターチェンジ（仮称）については、10月から用地買収に着手しました。

- 中部縦貫自動車道の整備促進や大野・大野東間の早期事業化について国土交通省に強く要請を行いました。

永平寺大野道路の永平寺・上志比間については、6月に平成28年度開通が決定しました。

福井北・松岡間についても、平成26年度開通に向けて工事が順調に進捗しています。

大野油坂道路については、大野東・和泉間の用地買収が約5割進捗しました。和泉・油坂間では、幅杭打設に向けて調査設計が進捗しています。

- 福井港丸岡インター連絡道路については、国道8号から県道福井加賀線までの区間において都市計画決定を行いました。
- 併せて、県内の主要道路の整備について、優先度をつけて計画的に促進しました。
- これからも、高規格幹線道路の早期整備と主要道路の効率的な整備により、道路交通ネットワークの確保を図っていきます。

2 災害に強いインフラの整備

- 橋梁、河川の排水機場、砂防堰堤、下水道施設、港湾施設などインフラの点検結果に基づく維持・補修による長寿命化対策を進めました。
- 足羽川ダムについては、国が地権者間と順次補償契約を進めるとともに工事用道路等に着手しています。一日も早くダムが完成するよう引き続き国に求めていきます。また、河内川ダム、吉野瀬川ダムについても早期完成に向け事業を推進します。
- 県内の河川において、洪水に備えた改修を進めるとともに、河道内の流下阻害の恐れのある土砂や雑木等の除去を行い、治水安全度の向上を図りました。
- 土砂災害対策については、ハード整備と併せて、市町と連携した避難訓練等を実施するとともに、災害時要援護者関連施設に対し避難訓練の実施を働きかけ、防災体制の整備を図りました。

- ・ 道路の防災・防雪・除雪・融雪対策を進め、道路の安全を確保しました。
 - ・ これからも、自然災害に対する県民の安全安心の確保を図っていきます。
- 3 県民と共働して便利で美しいまちづくり
- ・ 県内12地区における地域の特性に応じた住教育の実施、橋りょう景観ガイドラインに基づく評価など、景観改善の環境づくりを進めました。
 - ・ 老朽化や退色が進んだ公共施設の案内看板等の除却や、歩道整備区間における道路標識等の集約化を実施し、道路景観を改善しました。
 - ・ 県都のシンボルである足羽川でのにぎわい創出のため、水辺での活動の促進と定着に取り組みました。
 - ・ これからも、景観改善やにぎわい創出などを図る各種施策を実施することで、県民の生活に潤いと活力を与えるまちづくりの推進を図っていきます。

II 「政策合意」項目にかかる結果について

- ・ 別紙「平成25年度 政策合意項目にかかる実施結果報告（土木部）」のとおり

平成25年度 政策合意項目にかかる実施結果報告(土木部)
(平成26年3月末現在)

【実施結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	土木部長	氏名	幸道 隆治
項目		実施結果	
<p>1 県土に活気の高速交通時代</p> <p>◇ 高速交通ネットワークの完結促進</p> <p>○舞鶴若狭自動車道の全線開通</p> <p>・平成26年夏までの全線開通を中日本高速道路会社に働きかけ、早期の供用を目指します。</p>		<p>[成果等] 引き続き実施します。</p> <p>舞鶴若狭自動車道の平成26年夏までの全線開通や、一日も早い全線開通時期の公表を国と中日本高速道路株式会社に要請しました。</p> <p>小浜・敦賀間については、難工事箇所であった笙の川橋が12月につながり、すべての橋梁の架設が完了するなど、平成26年度開通に向けて全区間で工事が進められています。</p> <p>【舞鶴若狭自動車道の進捗状況】</p> <p>小浜・敦賀間 (39 km)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度に架設完了した橋梁 (橋長100m以上) 1橋 (全22橋中22橋架設完了) 笙の川橋 	
<p>○中部縦貫自動車道の整備促進</p> <p>・永平寺大野道路については、平成26年度開通予定の福井北・松岡間と平成28年度開通を要望している永平寺東・上志比間の工事促進を国に要請し、早期の全線開通を目指します。</p> <p>・大野油坂道路の大野東・和泉間の早期工事着手に向けて、用地の取得を行います。</p> <p>・大野油坂道路の大野・大野東間の平成26年度新規事業化と全線の早期整備をミッシングリンクの解消を要請している他県とも協力して国に強く働きかけます。</p>		<p>[成果等] 引き続き実施します。</p> <p>中部縦貫自動車道の整備促進や大野・大野東間の早期事業化について国土交通省に強く要請を行いました。</p> <p>永平寺大野道路の永平寺東・上志比間については、6月に平成28年度開通が決定しました。難航していた用地について10月に取得が完了し、全区間で工事が順調に進められています。福井北・松岡間についても、平成26年度開通に向けて工事が順調に進捗しています。</p> <p>大野油坂道路については、大野東・和泉間の用地取得が約5割 (大野東・勝原間では9割以上) 進捗しました。和泉・油坂間では、幅杭打設に向けて調査設計が進捗しています。</p> <p>【中部縦貫自動車道の進捗状況】</p> <p>永平寺大野道路</p> <p>永平寺東・上志比間 (5.3 km)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・轟地区工事着手 ・用地取得完了 <p>大野油坂道路</p> <p>大野東・和泉間 (14 km)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用地取得が進捗 (約5割 (面積ベース)) <p>和泉・油坂間 (15.5 km)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査設計が進捗 	

役職	土木部長	氏名	幸道 隆治
項目		実施結果	
<p>○追加インターチェンジの整備促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 舞鶴若狭自動車道敦賀南スマートインターチェンジ（仮称）の整備促進と三方PAスマートインターチェンジ（仮称）の連結許可を国と中日本高速道路株式会社に要請し、早期整備を目指します。 		<p>〔成果等〕 引き続き実施します。</p> <p>スマートインターチェンジの整備促進について国と中日本高速道路株式会社に要請しました。</p> <p>三方PAスマートインターチェンジ（仮称）については、6月に設置が許可され、敦賀南スマートインターチェンジ（仮称）については、10月から用地買収に着手しました。引き続き早期整備を中日本高速道路株式会社へ働きかけます。</p> <p>【供用予定年度】</p> <p>敦賀南スマートインターチェンジ 平成28年度</p> <p>三方PAスマートインターチェンジ 平成29年度</p>	
<p>○主要県内道路・県境道路の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 高規格幹線道路と連結する基幹的な道路ネットワークを最優先に整備します。 福井港丸岡インター連絡道路については、国道8号から県道福井加賀線までの区間において都市計画決定を行います。 県民の安全と利便性、効果、効率性とともにより地元合意や市町の協力体制なども考慮し、優先度をつけて計画的に整備します。 <p>〔県内主要道路の供用箇所数 13箇所（平成24年度末 11箇所）（2箇所の増）〕</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>国道305号ホノケ山トンネルとえちぜん鉄道永平寺口駅にアクセスする県道竹田東古市停車場線が供用されました。</p> <p>福井港丸岡インター連絡道路については、1月に国道8号から県道福井加賀線までの区間において都市計画決定を行いました。</p> <p>〔主要道路の供用箇所数 13箇所（2箇所の増）〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 国道305号〔ホノケ山トンネル〕（南越前町河内～奥野々） 11月4日 県道竹田東古市停車場線〔永平寺口駅アクセス道路〕（永平寺町東古市） 26年3月31日 	

役職	土木部長	氏名	幸道 隆治
項目		実施結果	
<p>◇ 海と空の拠点を最大活用</p> <p>○敦賀港の利用促進【部局連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鞠山南地区多目的国際ターミナルにおいて、荷役作業の効率化を図るため、11月から、コンテナ貨物の荷捌き上屋であるコンテナ・フレート・ステーションの供用を開始します。 ・ 敦賀港の物流拠点としての機能を強化するため、港湾機能の再配置や新たな施設整備のあり方の検討を行います。 		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>11月12日に「鞠山南コンテナ・フレート・ステーション」の供用を開始しました。</p> <p>敦賀港の日本海側での物流拠点としての機能をさらに強化していくためには、鞠山北地区のフェリー・RORO船のふ頭用地不足の解消および新たな貨物のふ頭用地の確保を図る必要があるため、鞠山南地区の2期工事（ふ頭用地7.3haとー14m岸壁）についての検討を行いました。</p> <p>今後、北陸新幹線や原子力災害制圧道路等の工事で大量の土砂も発生することから、敦賀港での受け入れについて引き続き検討を進めていきます。</p>	
<p>○福井港の利用促進【部局連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中央航路への土砂の堆積を軽減する施設整備を検討します。 		<p>〔成果等〕 引き続き実施します。</p> <p>中央航路への土砂の堆積を軽減するため、施設整備による対策を検討し、北防波堤を延伸することで、中央航路への土砂の堆積量を7割程度削減できるとの結果が得られました。</p> <p>現在、施設の配置計画や環境影響調査、航路の安全調査を行っており、関係機関との協議を進め、同意を得たうえで、平成26年度中に港湾計画への位置づけを行います。</p> <p style="text-align: center;">〔 北防波堤の延伸 延長 L=600m（移設延長 300m、新設延長 300m） 〕</p>	

役職	土木部長	氏名	幸道 隆治
項目		実施結果	
◇ 次の50年の都市改造 ○えちぜん鉄道高架化の推進【部局連携】 ・鉄道高架施設の実施設を進めるとともに、年内に仮設線路の工事に着手します。		[成果等] 目標を達成しました。 えちぜん鉄道の高架化事業については、平成30年の福井国体までの完成を目指しており、新幹線高架へ乗り入れるための仮設線路工事に3月に着手しました。	
○新九頭竜橋の推進 ・早期の着工に向け、鉄道・運輸機構と共同で詳細設計を進めます。		[成果等] 引き続き実施します。 新九頭竜橋については、6月に設計業務に着手しました。詳細設計を早期に完了するよう、引き続き鉄道・運輸機構と共同で進めていきます。	
○足羽川の利活用の推進 ・水辺に親しむイベント、川遊び、釣り体験などの活動の定着を図ります。 ・水辺を活かした活動空間を形成するため船着場の整備を行います。 【釣りやカヌーなどの体験活動への参加者数 2,800人 (平成24年度 2,383人)】		[成果等] 目標を上回って達成しました。 市民団体や学校、企業などで構成する「まちなか足羽川会議」の参加団体と共働して、アユの稚魚放流やボートの川下りといった体験活動を実施し、多くの県民に参加いただきました。 また、新たな取組みとして、市民団体自らが水辺の活動を実施していくことを目的とした「地域リーダー育成講座」や、足羽川の歴史体験として、「毛矢の漕舟体験」を実施しました。 船着場については、九十九橋と桜橋の間に整備を行いました。 【釣りやカヌーなどの体験活動への参加者数 4,136人 主な体験活動 ・アユの稚魚放流体験 172人 ・ボートの川下り 37人 ・復興エコキャンドル 850人 ・お花見お餅つき&ジャグリング&フリーディング 1,200人 ・魚釣り教室 58人】	

役職	土木部長	氏名	幸道 隆治
項目		実施結果	
<p>◇ 電車・バス・自転車に乗りやすい街</p> <p>○自転車道の整備【部局連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存の自転車道や河川堤防を活用し、自転車走行環境の整備を進めます。 ・県境や観光地を含む自転車道のネットワーク化を進め、市町やカーセーブに係る各地区サイクリング協会等の団体等と共働し、わかりやすいルートマップを作成、周知するなど利用促進を図ります。 <p>〔自転車道のネットワーク化による安全な通行の確保 125km (平成24年度末 114km)〕</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>既存の道路を活用して、「道の駅みくに」から「北潟湖ハミングロード」までのネットワーク化を図りました。 福井市サイクリング協会および福井県サイクリング協会と共同し、ネットワーク化を進めた箇所をルートマップを作成しました。</p> <p>〔自転車道のネットワーク化による安全な通行の確保 136km (平成24年度末 114km)〕</p>	
<p>2 日本一の安全・安心</p> <p>◇ 地震・異常気象・災害などに迅速対応</p> <p>○インフラの長寿命化対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・橋梁、河川の排水機場、砂防堰堤、下水道施設、港湾施設などインフラの定期的な点検結果に基づく維持・補修による長寿命化対策を進めます。 		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・点検結果に基づき、橋梁35橋、河川排水機場5装置、砂防堰堤7基、下水道施設1装置、港湾17施設の維持・補修を実施し、インフラの長寿命化を図りました。 	
<p>○原子力災害制圧道路等の整備促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新設する道路について、用地買収を進め、取得が完了した箇所からすみやかに工事に着手します。 ・斜面对策や橋梁耐震補強など、既存の道路の防災機能を強化します。 		<p>〔成果等〕 引き続き実施します。</p> <p>新設道路については4路線で取付工事等に着手しました。工期を要すトンネル工事については1路線で着手し、来年度には残り3路線にも着手する予定です。</p> <p>現道の防災対策について、斜面对策については20箇所の工事を実施し、橋梁については青戸の大橋の補修補強を実施しました。</p>	

役職	土木部長	氏名	幸道 隆治
項目		実施結果	
<p>○道路インフラの防災対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの点検結果により対策が必要とされる緊急輸送道路や原子力発電所に至る道路などの箇所において、法面防災対策工事を実施します。 ・異常気象時等に、緊急輸送道路や迂回路のない路線を重点的にパトロールし、防災対策の充実を図ります。 <p>〔道路法面对策工事に着手する斜面数 29斜面 (うち原子力災害制圧道路に関する斜面数 12斜面) (平成24年度 39斜面)〕</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急輸送道路となっている国道305号などにおける30斜面(うち原子力災害制圧道路に関する斜面は13斜面)において道路法面对策工事に着手しました。 <p>〔道路法面对策工事に着手した斜面数 30斜面 (うち 原子力災害制圧道路に関する斜面数 13斜面)〕</p>	
<p>○道路インフラの除雪対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急医療施設周辺道路、最重点除雪路線、緊急輸送道路などについて順次消雪施設を整備します。 ・雪崩対策が必要な箇所に防雪施設を重点整備します。 ・11月頃までに、パトロール、支障木の事前伐採、国、高速道路株式会社等との情報共有などについて、これまでの大雪時の課題を再点検し、一層の除雪対策を進めます。 ・平成26年度の舞鶴若狭自動車道全線開通に向け、嶺南地域における今後の除雪体制のあり方を検討し、除雪対策の充実を図ります。 <p>〔消雪設備の整備延長 329km (平成24年度末 320km)〕</p>		<p>〔成果等〕 目標を上回って達成しました。</p> <p>病院周辺の県道である(一)湧上志比口線など17箇所での消雪施設を整備し約16km完成、また、防雪施設も5箇所重点整備しました。</p> <p>7月29日から雪の重みで倒れる恐れがある立木の有無についてパトロールを実施し、所有者や森林組合の協力を得て10月22日までに336本の支障木を伐採しました。</p> <p>10月29日に福井県道路情報連絡室幹事会を開催し、国、高速道路株式会社等と課題を再点検しました。11月29日には課題を踏まえた訓練を実施し、体制を整えました。</p> <p>武生・敦賀間の県管理道路である国道365号・476号については、グレーダ装置付き除雪トラック1台を増強し、ロータリー車等とあわせ13台の除雪体制としました。国、高速道路株式会社においても、除雪車の増強、路面監視カメラの増設が行われました。</p> <p>嶺南地域については、主要な県道である(主)上中田烏線および(主)小浜上中線において除雪トラック2台をグレーダ装置付き除雪トラックに更新しました。</p> <p>7月5日に「嶺南地域道路雪対策勉強会」を開催し、平成26年度の舞鶴若狭自動車道全線開通に向けた除雪体制のあり方を検討しました。今後、回を重ね除雪対策の充実を図ります。</p> <p>〔消雪設備の整備延長 336km (16kmの増)〕</p>	

役職	土木部長	氏名	幸道 隆治				
項目		実施結果					
<p>○治水対策の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年に浸水被害が発生した区間、想定氾濫区域内に家屋等が集中している区間、主要事業と関連する区間などを重点的に整備します。 ・計画的に河川の浚渫や伐木を実施し、あわせて土砂や伐木の有効利用を図ります。 ・過去の浸水実績を公表し、浸水が想定される区域等における新たな開発の抑制など適切な土地利用の誘導を図ります。 ・過去の浸水実績と洪水・土砂災害ハザードマップ情報を統合し、防災情報を一元的に提供します。 <p> 整備効果が現れる河川延長 3, 220m (平成24年度末 2, 220m) (1, 000mの増) 河川の計画的浚渫の実施 2万m³ (平成24年度 2万m³) </p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>治水対策を促進するため、市街地を流れる底喰川、主要事業である中部縦貫自動車道と一体的に整備が必要な荒川など効果が早期に発現できるよう重点的に整備を進めました。</p> <p>また、河川の浚渫と伐木を実施し、あわせて浚渫土砂の有効活用、伐採木材の無償提供を実施しました。</p> <p>浸水の危険性のある区域等を広く周知するために、過去の浸水の実績図を公表しました。</p> <p>土砂災害警戒区域、浸水想定区域、過去の浸水実績範囲、浸水写真、避難所位置などを掲載した地図情報を、平成26年3月24日から県ホームページで公開しました。</p> <table border="0" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 0 5px;">整備効果が現れる河川延長</td> <td style="text-align: right; padding: 0 5px;">1, 148mの増</td> </tr> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 0 5px;">河川の計画的浚渫の実施</td> <td style="text-align: right; padding: 0 5px;">4万m³</td> </tr> </table>		整備効果が現れる河川延長	1, 148mの増	河川の計画的浚渫の実施	4万m ³
整備効果が現れる河川延長	1, 148mの増						
河川の計画的浚渫の実施	4万m ³						
<p>○ダム事業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足羽川ダム事業については、用地補償が円滑に進むよう国に強く要請し、一日も早い完成を目指します。 ・水源地域対策特別措置法に基づく水源地域整備計画の作成や、池田町の地域活性化について国、池田町と協力して進めます。 ・河内川ダムについては、ダム本体掘削工事に着手し、吉野瀬川ダムについては、付替え道路工事を進め、事業の推進を図ります。 		<p>[成果等] 引き続き実施します。</p> <p>足羽川ダムについては、国が地権者間と順次補償契約を進めるとともに工事用道路等に着手しています。一日も早くダムが完成するよう引き続き国に求めています。</p> <p>また、水源地域整備計画の策定については、池田町の活性化に必要な総合的な支援策について全庁体制で取り組んでおり、引き続き国・池田町と協力して進めています。</p> <p>河内川ダムについては、ダム本体掘削工事に着手しました。吉野瀬川ダムについては、付替え道路工事を進め、事業の推進を図っています。</p> <p>【補償契約状況】 平成25年度末 68世帯のうち27世帯契約締結</p>					

役職	土木部長	氏名	幸道 隆治
項目		実施結果	
<p>○土砂災害対策の推進【部局連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> 土砂災害警戒区域において砂防堰堤などの整備を進め、土砂災害から守る人口の増加を図ります。 急傾斜地崩壊対策事業に合わせて、津波避難路の整備を進めます。 市町が実施する住民の避難訓練において、情報伝達訓練や防災講習会を実施し、防災体制を強化します。 保育所、高齢者施設、障がい者施設などの災害時要援護者関連施設に対し、土砂災害避難マニュアルの作成と避難訓練の実施を働きかけ、避難体制を強化します。 小学校を対象として土砂災害と洪水に備える出前授業を開催し、防災教育を進めます。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>砂防堰堤などの整備により保全する人口 34,710人 (平成24年度末 34,121人) (589人増)</p> <p>市町の土砂災害避難訓練の実施数 14市町 (平成24年度末10市町)</p> <p>災害時要援護者関連施設の土砂災害避難訓練の実施数 121施設 チャレンジ目標 126施設 (平成24年度末 76施設)</p> </div>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>土砂災害に対する安全安心を確保するため、砂防堰堤などの施設を整備し、保全人口が590人増加しました。 海岸沿いの急傾斜地崩壊対策事業実施5箇所において、住民が津波からの避難に利用できる通路の整備、改修を行いました。</p> <p>県、市町、地域の連携による土砂災害を想定した避難訓練を新たに4市町で実施し、あわせて情報伝達の確認、防災講習を行い、住民の意識向上と警戒避難体制強化を図りました。 土砂災害警戒区域内に立地する災害時要援護者関連施設における土砂災害避難訓練が52施設において実施され、避難体制の強化が図られました。 小学生を対象とした防災出前授業を20校で開催し、土砂災害と水害についての防災意識の向上を図りました。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>砂防堰堤などの整備により保全する人口 34,711人 (590人増)</p> <p>市町の土砂災害避難訓練の実施数 14市町(4市町増)</p> <p>災害時要援護者関連施設の土砂災害避難訓練の実施数 128施設(52施設増)</p> </div>	

役職	土木部長	氏名	幸道 隆治
項目		実施結果	
<p>○木造住宅の耐震化促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 耐震改修工事に対する助成額の上限引き上げ、寝室や居間など長時間過ごす部屋のみを補強する部分耐震改修を新たに助成対象に加え、市町とともに木造住宅の耐震化を進めます。 耐震改修の現場見学会や助成制度の説明会、リフォーム工事の際に耐震改修工事を併せて行うように働きかけ、所有者の耐震改修に対する理解を深めます。 <p>〔耐震診断・補強プランが作成される木造住宅戸数 2,976戸 (平成24年度末 2,726戸) (250戸の増)〕</p> <p>〔耐震改修が行われる木造住宅戸数 150戸〕</p>		<p>〔成果等〕 目標にはいたりませんでした。</p> <p>耐震改修に係る費用負担の軽減を図るため、助成額の上限を60万円から110万円に引き上げるとともに、特定の居室のみを補強する部分的な耐震改修を新たに助成の対象に加え、木造住宅の耐震化を進めました。</p> <p>また、県民の住宅の耐震化への理解を深めるため、市町とともに広報誌やイベント等での補助制度の紹介、パネル展示、耐震改修の現場見学会などを実施しました。</p> <p>〔耐震診断・補強プランが作成される木造住宅戸数 2,890戸(164戸増)〕</p> <p>〔耐震化が図られる木造住宅数 53戸〕</p>	
<p>○空き家・空き地対策【部局連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中古住宅の品質や状態を明確にする「福井県版住宅診断制度」を創設し、市町とともに普及を図り、中古住宅の流通を促進します。 これまで県、市町で構成していた「福井県空き家対策協議会」に法律の専門家を加え、空き家の課題について対策を検討します。 福井の歴史や文化を反映した良質な空き家の保存・活用を推進します。 福井駅周辺の低未用地(空き地、駐車場)が点在している地区において、活用のための効果的な方法を検討します。 		<p>〔成果等〕 引き続き実施します。</p> <p>中古住宅の品質や状態を明確にする「福井県住宅診断制度」を創設し、制度の普及・促進を図りました。</p> <p>「福井県空き家対策協議会」に弁護士や関係団体を加え、空き家所有者の特定方法などについて検討し、空き家対策に関する指針を作成しました。</p> <p>空き家となった古民家や土蔵を体験交流施設や体験宿泊施設に改修するなど、良質な空き家の保存・活用を推進しました。</p> <p>また、7月に福井駅周辺街区再構築検討会を設置し、空き地対策の検討を開始しました。</p> <p>次年度以降も引き続き街区再構築に向けた検討を行います。</p>	

役職	土木部長	氏名	幸道 隆治
項目		実施結果	
<p>3 豊かな環境、もっと豊かに</p> <p>◇ 見える見せる温暖化対策</p> <p>○建設技術研究センターによる環境に調和した研究の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境に配慮した建設技術研究を実施し、アスファルト舗装や瓦の廃材など再生資源のリサイクル等を進めます。 ・農業ハウス倒壊の未然防止や効率的な除雪体制など、多方面に役立つ福井独自の降雪予測システムの開発を進めます。 ・橋梁のコンクリート床版の劣化状況を簡易かつ安価に診断する技術の研究を行い、橋梁の長寿命化を促進します。 <p>再生アスファルトを利用した薄層舗装の実用化に向けたモデル工事 5箇所</p> <p>簡易で安価な橋梁診断技術などの新規研究 2件</p>		<p>〔成果等〕 引き続き実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再生アスファルトを利用した薄層舗装のモデル工事を7箇所施工し、ひびわれやたわみが生じないことを確認しました。引き続き、実用化に向けたガイドラインを作成し、再生資源のリサイクルを進めます。 ・地形や過去の降雪量・気温・風などの気象データの解析を行って降雪予測式を作成しました。引き続き、予測式の計算結果と実際の降雪量を比較しながら精度を高め、福井独自の降雪予測システムの開発を進めます。 ・橋梁のコンクリート床版の劣化状況を小型計測器で簡易かつ安価に診断する技術を確立するため、県内の橋梁100橋の測定試験を実施しました。引き続き、その試験結果を基に劣化状況を具体的に把握する方法を開発するとともに、安価で補修できる工法を確立していきます。 <p>再生アスファルトを利用した薄層舗装の実用化に向けたモデル工事 7箇所</p> <p>簡易で安価な橋梁診断技術などの新規研究 2件</p>	
<p>○再生可能エネルギー設備の導入【部局連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・九頭竜川浄化センターにおいてバイオマスエネルギーを活用する発電設備を整備します。 ・市町の下水道処理場における再生可能エネルギー設備の導入を促し、市町とともにCO₂削減を進めます。 ・浄土寺川ダムや梶谷ダムなどにおいて、ダムからの放流水を最大限活用する管理用発電設備の導入を進めます。 ・砂防堰堤を活用した小水力発電について、施設の構造や発電量に関する情報などを広く周知し、地域への導入を支援します。 		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>バイオマスエネルギーを活用する発電設備については、九頭竜川浄化センターに消化ガス発電設備を導入し、供用開始しました。また、市町にも導入を促し、福井市の日野川浄化センターや、越前市の水循環センターにおいても再生可能エネルギー設備を導入しました。</p> <p>浄土寺川ダムおよび梶谷ダムにおいて、管理用発電設備設置のための詳細設計を行いました。平成26年度から27年度にかけて発電設備設置工事を行い、28年度からの発電開始を目指します。</p> <p>砂防堰堤を活用した小水力発電については、1市町1エネおこし事業等で採択された4地区に対し、導入に向けた検討、準備のため、堰堤の構造等に関する情報を提供しました。</p>	

役職	土木部長	氏名	幸道 隆治
項目		実施結果	
<p>◇景観を県民資産に ○景観調和の美しい社会資本の整備【部局連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・塗装の塗り替えが予定されている橋りょうについて、「福井県橋りょう景観ガイドライン」に基づき、適切な景観評価を行います。 ・老朽化や退色等が進んでいる公共施設の案内看板を撤去するなど、道路景観の改善を行います ・歩道の整備などに合わせて道路標識等の集約化を図ります。 ・福井ふるさと百景付近の景観向上を図るため道路標識を撤去します。 ・舞鶴若狭自動車道のインターアクセス道路を新たに福井県屋外広告物条例の「禁止地域」に指定し、屋外広告物の設置を抑制します。 ・はり紙など簡易な違反広告物を除却できる権限を、市町がボランティア団体等へ委任するよう働きかけ、地域住民と共働して違反広告物が設置されない環境づくりを進めます。 <p>ガイドラインに基づく景観評価に着手する塗り替え橋りょう数 3橋りょう</p> <p>背面利用や併設などによる道路標識等の減少 45箇所 (平成23、24年度実績 20箇所) (25箇所の増)</p> <p>新たに禁止地域に指定する区間 4区間</p> <p>簡易な違反広告物を除却できる権限をボランティア団体等に委任する市町数 8市町 (平成24年度 7市町) (1市町の増)</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>塗装の塗り替えを行う5橋りょうについて「福井県橋りょう景観ガイドライン」に基づき、景観検討会を開催し、景観評価を行いました。</p> <p>公共施設への案内看板等を撤去するなどし、道路景観を改善するため、関係部局と協議し、計画的に除去を進めました。</p> <p>舞鶴若狭自動車道のインターアクセス道路を屋外広告物審議会に諮り、新たに福井県屋外広告物条例の「禁止地域」に指定しました。</p> <p>簡易な違反広告物を除却できる権限を、新たに小浜市がボランティア団体へ委任しました。</p> <p>景観評価に着手する塗り替え橋りょう数 5橋りょう (東藤島高架橋・国416号・福井市) (福島立体交差橋・丸岡川西線・坂井市) (安光立体交差橋・芦原丸岡線・坂井市) (野尻橋・国158号・大野市) (子馬巣谷橋・国158号・大野市)</p> <p>背面利用や併設などによる道路標識等の減少 49箇所 (29箇所の増)</p> <p>新たに禁止地域に指定する区間 4区間</p> <p>簡易な違反広告物を除去できる権限をボランティア団体等に委任した市町数 8市町 (平成24年度 7市町) (1市町の増)</p>	

役職	土木部長	氏名	幸道 隆治
項目		実施結果	
<p>○建設発生土の有効利用【部局連携】</p> <p>・北陸新幹線等大型工事や福井港・河川の浚渫等で生じる建設発生土の受入可能候補地の調査や養浜・骨材への再利用などの検討を事業者と行い、建設発生土の有効利用を図るとともに、土砂採取による山の切り崩しを抑制し、景観を保全します。</p>		<p>〔成果等〕 引き続き実施します。</p> <p>・今年度、鉄道・運輸機構、国土交通省、県および市町をメンバーとした「建設発生土利用促進委員会」を3回開催し、北陸新幹線や中部縦貫自動車道など大型工事から生じる建設発生土の需給調整を行いました。</p> <p>また、新北陸トンネル工事の掘削土や福井港の浚渫砂を骨材として再利用できることを確認するとともに、福井港浚渫砂は赤崎海岸の養浜にも活用しました。</p> <p>引き続き、北陸新幹線等大型工事から生じる建設発生土の需給調整を行うとともに、骨材への再利用も検討しながら、建設発生土の有効利用を図ります。</p>	

役職	土木部長	氏名	幸道 隆治																		
項目		実施結果																			
<p>○子どもにも大人にも新しい「住教育」を推進【部局連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福井らしい「住まい」「まち並み」「住まい方」を学び、次世代へ継承する「住教育」をモデル地区で実践します。 ・歴史的なまち並みや集落景観の維持・修景などを通じ、地域住民による良質な古民家の保存・活用を進めます。 <p>〔住教育実践モデル地区数 12地区 (平成24年度末8地区)(4地区の増)〕</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>県内8地区のモデル地区において、関係団体と連携して、街なか散策や小学生を対象とした宮大工による体験講座など、地域住民とともに住教育を実施しました。</p> <p>また、歴史的なまち並みがあるモデル地区において、身近にできる景観づくりを行い、住民の景観に対する意識の醸成を図りました。</p> <p>〔住教育実践モデル地区数 12地区 (4地区の増)〕</p> <table border="0"> <tr> <td>平成23から24年度</td> <td>平成24から25年度</td> </tr> <tr> <td>福井市：日新地区</td> <td>大野市：大野地区</td> </tr> <tr> <td>敦賀市：舟溜り地区</td> <td>勝山市：片瀬地区</td> </tr> <tr> <td>越前市：タンス町界隈</td> <td>鯖江市：吉江地区</td> </tr> <tr> <td>南越前町：今庄宿</td> <td>坂井市：東十郷地区</td> </tr> <tr> <td>平成25から26年度</td> <td></td> </tr> <tr> <td>小浜市：遠敷地区</td> <td></td> </tr> <tr> <td>永平寺町：京善地区</td> <td></td> </tr> <tr> <td>高浜町：高浜地区</td> <td></td> </tr> </table>		平成23から24年度	平成24から25年度	福井市：日新地区	大野市：大野地区	敦賀市：舟溜り地区	勝山市：片瀬地区	越前市：タンス町界隈	鯖江市：吉江地区	南越前町：今庄宿	坂井市：東十郷地区	平成25から26年度		小浜市：遠敷地区		永平寺町：京善地区		高浜町：高浜地区	
平成23から24年度	平成24から25年度																				
福井市：日新地区	大野市：大野地区																				
敦賀市：舟溜り地区	勝山市：片瀬地区																				
越前市：タンス町界隈	鯖江市：吉江地区																				
南越前町：今庄宿	坂井市：東十郷地区																				
平成25から26年度																					
小浜市：遠敷地区																					
永平寺町：京善地区																					
高浜町：高浜地区																					
<p>○三里浜緑地の利活用の推進【部局連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近に緑の自然景観を楽しめるよう、緑地内の環境改善策をモデル地区において検討し、利用しやすい環境づくりを進めます。 ・健康づくりのためのウォーキングや子供たちの自然学習の場として自然観察会などのイベントを開催し、自然とふれあえる活動を展開します。 		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>「道の駅」周辺のモデル地区において、関係部局と連携して、環境改善計画を策定し、一部環境改善に着手しました。</p> <p>地元まちづくり協議会や「道の駅みくに」とも連携し、健康づくりのためのウォーキングや子供たちの自然学習などのイベントを実施し、多くの県民の参加をいただきました。</p> <p>【参加者数】</p> <table border="0"> <tr> <td>親子ふれあい自然学習会</td> <td>61名</td> </tr> <tr> <td>自然散策ウォーキング</td> <td>56名</td> </tr> </table>		親子ふれあい自然学習会	61名	自然散策ウォーキング	56名														
親子ふれあい自然学習会	61名																				
自然散策ウォーキング	56名																				

役職	土木部長	氏名	幸道 隆治
項目		実施結果	
<p>4 観光とブランドを産業の柱に ◇ 観光を福井のリーディング産業へ ○道の駅の整備【部局連携】 ・平成23、24年度に選定した鯖江市、越前町、若狭町および永平寺町の4箇所において、市町が整備する観光や農産物販売の拠点となる地域振興施設と合わせて整備を進めます。</p>	<p>〔成果等〕 引き続き実施します。</p> <p>鯖江市、越前町、若狭町および永平寺町の4箇所において整備を進め、その内、鯖江市については今年度で整備完了、その他の3箇所については、平成26年度も引き続き整備を進めます。</p> <p>【整備内容】</p> <p>鯖江市 道の駅「西山公園」 ・休憩施設、トイレ、駐車場</p> <p>越前町 道の駅「越前」 ・駐車場</p> <p>若狭町 道の駅「三方五胡」 ・休憩施設、トイレの設計</p> <p>永平寺町 道の駅「永平寺温泉」 ・休憩施設、トイレの設計</p>		
<p>5 行財政構造改革による財源の確保 ◇ 150億円の「政策推進枠予算」を確保 ○県有地の売却・利活用 ・土地利用促進チームが、専門業者の販売ノウハウやインターネット公有財産売却システムを活用し、民間企業等への売却や利活用を進めます。</p> <p>売却・利活用する土地の区画数7区画</p>	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>関係団体、近隣企業、宅建業者へのPRや訪問活動、一般公募を行い、6区画を売却、1区画を有償貸付しました。これからも訪問活動等を継続していくとともに、宅地建物取引業団体等の情報網やノウハウを活用して、土地の売却や利活用を進めます。</p> <p>売却・利活用した土地の区画数 7区画</p> <p>〔有償貸付〕 1区画 ・福井市大手 民間業者に駐車場として有償貸付 (H23.6~H26.1)</p> <p>〔売却〕 6区画 ・福井市大手 個人に1区画売却 ・花乃杜ハイツ 個人・業者に5区画売却</p> <p>・25年度歳入：117,065千円</p>		